

M26c 惑星間空間多点観測による太陽風速度構造の変動解析

和田 大三郎 (東海大学), 三宅 互 (東海大学)

惑星間空間の2地点で観測される太陽風の相違は、共回転構造を仮定して太陽経度と太陽からの距離の差からなるタイムラグを考慮すれば理解できるほど単純なものではなく、時として複雑な様相を示すことがある。我々の研究は、太陽の周りを周回する STEREO AHEAD と STEREO BEHIND、さらに太陽と地球の間にある L1 点に位置する ACE、この3機の探査機が取得した太陽風データのなかから、太陽風速度に着目し、太陽風の構造変化を探る。解析方法としては、太陽から地球に到来する太陽風速度の伝搬を一定とし、観測した太陽風の源の位置を推定し、太陽風のソース領域のデータと観測された太陽風を比較することで、関係を調べる。2007、2008年における2地点の太陽風速度の相関が落ちたところに着目する。その太陽風変動の要因について、CMEの影響、探査機の緯度差、数日間におけるソース領域の時間変動の可能性、等について、太陽のEUV画像やCMEデータなどにより考察をする。

最後に、「日本天文学会 2012 年春季年会のお知らせ」をもう一度よく読んでいただくことをお願いしておきたい。しかしそれでも何か質問等がある場合は、年会実行委員会まで遠慮なくお問い合わせいただきたい。